



農薬の安全で上手な使い方を確認し 効果的な防除を行きましょう！

【指導員】 園芸果樹課 高階 崇之

梅雨の季節となり、露地作物への病害虫の発生が懸念されます。今回は、農薬の安全で上手な使い方についてお伝えします。農薬は適切に使用することで、生産の安定化や品質向上を図るなど、農業生産にとって重要な資材です。今回の情報を参考に効果的な防除に努めましょう！

■農薬使用者の遵守義務

- 農薬を正しく使うことは使用者の義務です。以下の使用法を守り適正に使用しましょう。
- ① 適用作物以外に使用しない
 - ② 単位面積当たりの使用量を上回って使用しない
 - ③ 決められた使用時期以外では使用しない
 - ④ 使用総回数を上回って使用しない
- ※これらに違反した場合、3年以下の懲役、百万円以下の罰金が科せられますので注意が必要です。

■作物によって異なる農薬の付着度

作物には農薬の付着の良いものと悪いものがあります。付着が悪い作物では展着剤を使用することで作物が濡れやすくなり、農薬の効果も高まりますが、逆に付着の良い作物では、展着剤をむやみに使用する必要はありません。

◆濡れが悪い作物：キャベツ、ネギ、サトイモ

◆中間の作物：イチゴ、メロン、トマト、ナス

◆濡れが良い作物：キュウリ、インゲン、サツマイモ

■展着剤の使用上のポイント

- ① 乳剤やフロアブル剤には使用しない。
- ② 展着剤を使用する時は、「水↓展着剤↓水和剤」の順に混合する。
- ③ 展着剤を多く入れ過ぎると濃度が濃すぎて薬害の原因となるので注意しましょう。

■展着剤の種類

◆一般展着剤：散布後の表面張力を下げること、濡れにくい作物や虫体へ農薬の付着を良くして、防除効果を高めます。
〈例〉マイリノール、ハイテンパワールなど

◆機能性展着剤：内部への浸透力を高める性質を持ち、殺菌力

や耐雨力、残効性などを増強します。

〈例〉ニーズ、アプローチBI、ミックスパワーなど

■農薬混用の順序

◆水和剤あるいはフロアブル剤と乳剤の混用：乳剤の希釈液を調整したあと、水和剤あるいはフロアブル剤を加えて混合溶液を調整しましょう。

◆水和剤あるいはフロアブル剤の混用：一つの水和剤ある

いはフロアブル剤の希釈液を調整したあと、次の水和剤あるいはフロアブル剤を加えて混合溶液を調整しましょう。



病気や害虫によって効く薬は異なります。病害虫の種類を把握することが大事です。農薬を良く効かせるポイントは、雨の前は、「病原菌は水で目を覚ますので、その前に菌の密度を下げる」、雨の後や台風の後などは「農作物がダメージを受けているので殺菌剤と葉面散布剤を混用して散布する」を守り、効果的な防除を行きましょう！

【農薬ラベルの見方】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤及び〇〇を含む農薬の総使用回数	使用方法
きゅうり なす	オンシツコナジラ アブラムシ類	1,000倍	前日まで	5回以内	散布
レタス類	アブラムシ類	2,000倍	7日前まで		
トマト	オンシツコナジラ アブラムシ類	1,000倍 ～2,000倍	前日まで		

ここに記載された作物と対象病害虫にしか使えない

前日までとは収穫開始の24時間より前に使用すること！

同じ成分が含まれる農薬の使用回数。例えば、ダエールとTPNが、顆粒水和剤を使った場合、どちらも「TPN」という成分が含まれるため、この成分を2回使ったことになる。